

10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展  
写真はものを見方をどのように変えてきたか 第1部 誕生

期 間 平成17年4月2日(土)～5月22日(日) 44日間  
主 催 東京都/東京都写真美術館  
協 賛 フォト・ギャラリー・インターナショナル  
開館10周年特別協賛  
キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社リコー

10周年記念特別企画として、写真美術館が収蔵するコレクションのみを活用し、写真の歴史を語る第1部である。ルネサンス期、自然科学への興味の高まりによってカメラ・オブスクラの現象が衆目を集めた色彩の鮮やかなこの照射映像は世界を瞳で把握する手段として、西欧の社会に浸透した。このような社会背景から発明された「写真」の歴史的展開を西洋と日本の二つの視点から展覧し、写真史初期を収蔵作品によってつまびらかにした。

10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展  
写真はものを見方をどのように変えてきたか 第2部 創造

期 間 平成17年5月28日(土)～7月18日(月) 45日間  
主 催 東京都/東京都写真美術館  
協 賛 フォト・ギャラリー・インターナショナル  
開館10周年特別協賛  
キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社リコー

10周年記念特別企画として、写真美術館が収蔵するコレクションのみを活用して写真の歴史を語る第2部である。19世紀末から1930年代までのモダニズムの時代に、様々な試みがなされた写真表現を紹介した。ビクトリアリズムを標榜し、写真が絵画と関わりながら如何に多くの表現方法を生み出していったか、欧州、アメリカ、日本の作家を比較し検証した。また、ストレート写真やドキュメンタリースタイル、パウハウスやシュルレアリスムといった同時世代の芸術と連動した写真などを紹介した。

10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展  
写真はものを見方をどのように変えてきたか 第3部 再生

期 間 平成17年7月23日(土)～9月11日(日) 46日間  
主 催 東京都/東京都写真美術館  
協 賛 フォト・ギャラリー・インターナショナル  
開館10周年特別協賛  
キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社リコー

10周年記念特別企画として、写真美術館が収蔵するコレクションのみを活用して写真の歴史を語る第3部である。収蔵作品により1930年代から60年代までの日本の写真史を、12人の写真家作品により、列伝的に紹介した。

10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展  
写真はものを見方をどのように変えてきたか 第4部 混沌

期 間 平成17年9月17日(土)～11月6日(日) 44日間  
主 催 東京都/東京都写真美術館  
協 賛 フォト・ギャラリー・インターナショナル  
開館10周年特別協賛  
キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社リコー

10周年記念特別企画として、写真美術館が収蔵するコレクションのみを活用して写真の歴史を語る第4部である。国内外の現代写真の流れを一挙紹介した。アメリカをはじめ、ヨーロッパ、日本、アジアの各国・地域の第一線で活躍している著名な写真家・アーティストの代表作を中心に展示した。



10周年記念特別企画展  
植田正治：写真の作法

期 間 平成17年12月17日（土）～平成18年2月5日（日）  
41日間

主 催 東京都／東京都写真美術館

特別協力 鳥取県伯耆町立植田正治写真美術館

協 賛 フォト・ギャラリー・インターナショナル

開館10周年特別協賛

キヤノン株式会社／サッポロホールディングス株式会  
社／株式会社資生堂／株式会社写真弘社／ソニー株式  
会社／大日本印刷株式会社／凸版印刷株式会社／株式  
会社日本発色／富士フイルムイメージング株式会社／  
株式会社リコー

当館の重点収集作家個展の一環として、植田正治をとりあげた。  
植田正治は1930年代から晩年までモダンな感覚にあふれた表  
現で世界的な評価を獲得した。彼の代表作と知られざる一面の  
両方を、当館のコレクションを中心に植田正治写真美術館の協  
力を得て展示構成をした。



展覧会事業  
映像展

10周年記念特別企画映像展  
超[メタ]ヴィジュアル—映像・知覚の未来学

期 間 平成17年4月30日（土）～7月10日（日）63日間  
前期 4月30日（土）～6月5日（日） 33日間  
後期 6月7日（火）～7月10日（日） 30日間

巡 回 展 フランス・アンギャンレバン市立アートセンター  
（平成17年10月7日（金）～12月18日（日））

主 催 東京都／東京都写真美術館

後 援 文化庁

企画協力 株式会社NHKエンタープライズ

開館10周年特別協賛

キヤノン株式会社／サッポロホールディングス株式会  
社／株式会社資生堂／株式会社写真弘社／ソニー株式  
会社／大日本印刷株式会社／凸版印刷株式会社／株式  
会社日本発色／富士フイルムイメージング株式会社／  
株式会社リコー

協 力 NHK放送技術研究所／九州大学大学院源田研究  
室／財団法人CG-ARTS協会／毎日新聞社／NTTイ  
ンターコミュニケーション・センター[ICC]／白石コ  
ンテンポラリーアート／新潮社／キューンレコー  
ド／日本ビューレット・パッカード株式会社／シリ  
コンスタジオ株式会社／Google／日本バイナリー株  
式会社／株式会社フレックスインターナショナル／  
株式会社堀内カラー／株式会社イーケイジャパン／  
クリエイティブクラスター／NTTコムウェア株式  
会社／東京大学岩井研究室／任天堂株式会社／株式  
会社ポリゴンピクチャーズ／フォトン／株式会社C  
ADセンター／スピーシーズ株式会社／ERATO 合  
原複雑数理 モデルプロジェクト／シャープ株式会  
社／ロリアル・アーツ・アンド・サイエンス・ファ  
ウンデーション／NPO法人CANVAS／  
Technology by Apple

映像部門（映像工芸館展）の10周年記念展として、約4,000  
点の映像史コレクションを5つのカテゴリーで総覧・紹介し、  
メディアアートを中心とした現代作品とともに、ひとつの「メ  
タヴィジュアル（超視覚的）」な空間を創り出した。希少な歴史  
装置や魅力ある現代作品（名和晃平、岩井俊雄、minim++, 木  
本圭子、河口洋一郎、横尾忠則、平野啓一郎他）の展示だけで  
なく、世界的産業・文化としての映像メディア分野に先駆的に  
取り組んだ文化施設として、ITを用いた展示支援（iPod  
Photo）や「バーチャルスコープ」「モルフオブジョン」といっ  
た未来の映像装置も実験的に設置した。あわせて、10周年記念  
教材（ELEKIT驚き盤セット）の開発と発売、親子対象のワー  
クショップを行い、教育機関から多数の団体見学・学外授業を  
得た。また、フランス・ヴァルドワーズ県／アンギャンレバン  
市において巡回展を行い、国際シンポジウムなどを併催、ヨー  
ロッパ全土より多数の入場者を集め、日本のメディア芸術や当  
館収蔵品、10周年を迎える成果をアピールした。

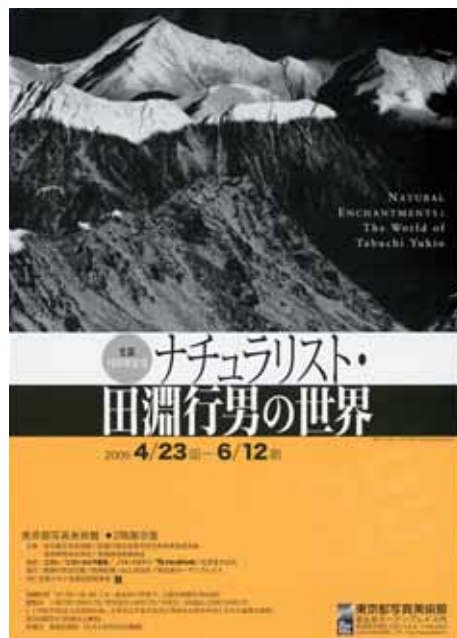


展覧会事業  
自主企画展

生誕100年記念  
ナチュラリスト・田淵行男の世界

期 間 平成17年4月23日(土)～6月12日(日) 45日間  
巡 回 展 岡田紅陽美術館(平成17年7月13日(水)～9月5日(月)) / 札幌市写真ライブラリー(平成17年9月21日(水)～10月10日(月))  
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 田淵行男生誕百年記念事業実施委員会 / 読売新聞東京本社 / 美術館連絡協議会  
助 成 UFJ信託文化財団  
協 賛 株式会社ニコン / ニコンカメラ販売株式会社 / 株式会社資生堂 / 富士フイルムイメージング株式会社 / 花王株式会社  
協 力 光村印刷株式会社 / 恵比寿ガーデンプレイス株式会社 / 田淵行男記念館 / 株式会社山と溪谷社

日本を代表する山岳写真家であると同時に、昆虫生態研究、民俗学の貴重な記録となる雪形研究など幅広い分野に偉大な業績を残した田淵行男の生誕100年を記念した展覧会。田淵の全仕事を紹介するとともに、愛用の写真機材、登山道具、写真集の絵コンテなど貴重な資料もあわせて展示し、繊細な感性と自然への畏敬にあふれる田淵行男の写真世界の魅力に迫った。



ブラッサイ  
—ポンピドゥーセンター・コレクション展

期 間 平成17年8月6日(土)～9月25日(日) 44日間  
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 朝日新聞社  
後 援 フランス大使館  
協 賛 エールフランス航空  
協 力 ポンピドゥーセンター / 株式会社岩波書店 / 株式会社PPS通信社

世界最大のブラッサイ・コレクションを誇るポンピドゥーセンターの、アジア地区唯一の巡回展として、世界巡回展を開催した。20世紀を代表する多才なアーティストでありながら、写真・彫塑・素描の総合的な美術展の開催が困難であったブラッサイの初の大規模な回顧展となった。



恋よりどきどき：コンテンポラリーダンスの感覚(アイステーシス)

期 間 平成17年10月1日(土)～11月13日(日) 38日間  
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 朝日新聞社 / ダンス展実行委員会  
協 賛 凸版印刷株式会社 / 東京スタデオ  
助 成 芸術文化振興基金  
協 力 キヤノン株式会社 / キヤノン販売株式会社 / 社会福祉法人AJU自立の家  
後 援 立教大学 / 日本ダンスフォーラム

現代表現の注目すべきメディアとして「身体」に着目し、「身体」を表現手段とする昨今話題を集めているコンテンポラリーダンスを取り上げて、「身体」というメディアの有効性と、感覚の拡がりについて考察し、現代美術のなかに包括されようとしている写真、映像などの各メディアが結びつけられるものとしての身体について検証した。

展示室内でのインスタレーションだけでなく、館内各所を使ったダンスイベントや江戸東京たてももの園、東京都庭園美術館、東京芸術劇場との連携事業を行った。



写真展・岡本太郎の視線

期 間 平成17年12月24日(土)～平成18年2月18日(土) 46日間  
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 読売新聞東京本社 / 美術館連絡協議会  
協 力 財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団 / 岡本太郎記念館 / 川崎市岡本太郎美術館  
協 賛 花王株式会社 / 株式会社写真弘社

1996年(太郎没年)以降、養女でありパートナーであった岡本敏子氏との関わりから写真集の出版やマスメディアにおいてとりあげられるなど、広範に普及し拡がりを見せた岡本太郎の写真と資料を元にして、岡本太郎と写真の関わりをつまびらかにした。

岡本太郎が関わりをもった1930年代にパリで活躍したブラッサイ、マン・レイ、ロバート・キャバ等写真家の写真作品、岡本太郎による日本を縦断した取材の際に撮影されたスリーブ(コンタクトプリント)の拡大、『芸術新潮』に連載された「日本風土記」および中央公論社から出版された『沖縄文化論』に発表された岡本太郎の写真を資料と大判プリントで展示した。



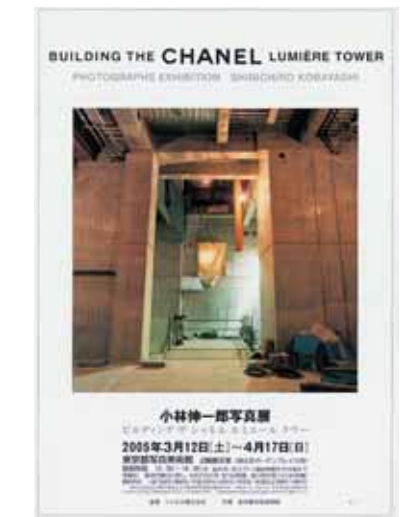


展覧会事業  
共催企画展

### 小林伸一郎写真展 BUILDING THE CHANEL LUMIÈRE TOWER

期 間 平成17年3月12日(土)～4月17日(日) 15日間(平成17年4月1日以降の開館日数)  
主 催 シャネル株式会社  
共 催 東京都写真美術館

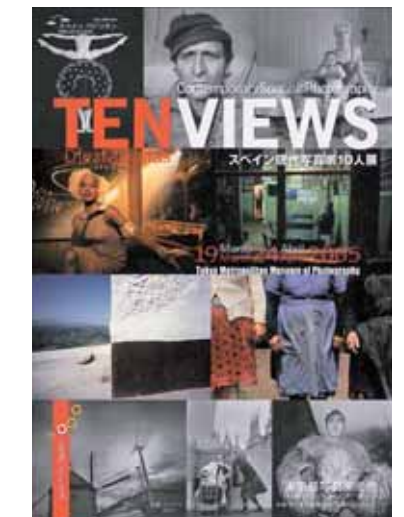
相反する両極の世界に惹かれ、時代に取り残され朽ち果てていく「鉱山」「工場」などの廃墟や、完成に向かおうとする「建造物」「高速道路」「ダム」などを被写体にレンズを向けてきた小林伸一郎。彼は銀座3丁目にオープンした「シャネル銀座ビルディング」の全撮影を担当。旧ビル解体から完成までを650日に及ぶ密着撮影で写し出した。本展ではアーティスティックなフォトドキュメントに取り組んだ作品を大型オリジナルプリント100点ほかで展示した。



### 愛知万博スペインパビリオン TEN VIEWS SPAIN 現代写真家10人展

期 間 平成17年3月19日(土)～4月24日(日) 21日間(平成17年4月1日以降の開館日数)  
主 催 スペイン万博公団  
共 催 東京都写真美術館  
協 賛 Lunwerg社

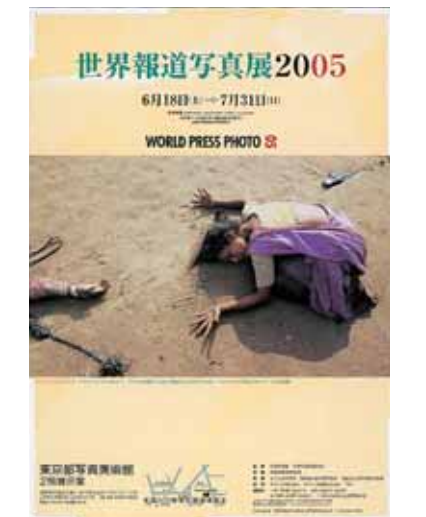
過去25年の民主社会において、スペインが遂げた変貌をテーマにした写真展。クリスティーナ、ガルシア、ロデロなど、ドキュメンタリー写真で知られる10人のスペイン人写真家の作品を展示した。彼らのファインダーを通して、今日のスペイン、スペインの街角、人びとの生活や習慣、祭りや儀式、ライフスタイルの変化や過去数十年の経済や社会の発展と変遷などを収めた作品が集結。創造性や専門知識のレベルが高い写真家たちによる、スペインが経験してきた20世紀から21世紀への移り変わりの瞬間を焼き付けた写真を展示した。



### 世界報道写真展2005

期 間 平成17年6月18日(土)～7月31日(日) 39日間  
主 催 朝日新聞社/世界報道写真財団  
共 催 東京都写真美術館  
後 援 オランダ王国大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会  
協 賛 キヤノン株式会社/キヤノン販売株式会社/TNT

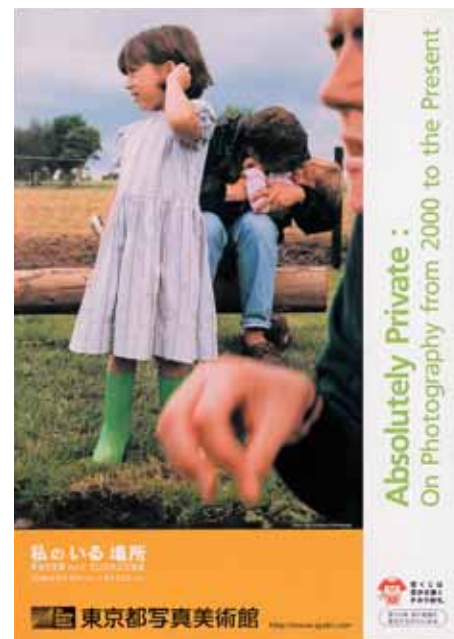
平成17年度の世界報道写真大賞は、無言のうちに、スマトラ沖地震による津波の被害のすさまじさを私たちに訴えかける写真だった。予期せぬ天災、各地で続く紛争、一方で肉体が躍動するスポーツシーンなど、受賞作品のそれぞれに写し出される地球上で起きた様々な瞬間は、映像よりも鮮烈に真実の報道の重要性と力強さを物語っていた。世界中のプロカメラマンが、時に命をかけて撮影した約200点の作品により、現在の「世界」が私たちの目前に刻まれた。



### 新進作家展vol.4 私のいる場所：ゼロ年代の写真論

期 間 平成18年3月11日(土)～4月23日(日) 18日間(平成18年3月31日までの開館日数)  
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
助 成 財団法人地域創造  
後 援 オーストリア共和国大使館/オランダ王国大使館/大韓民国大使館 韓国文化院/ハンガリー共和国大使館/フィンランドセンター/フランス大使館/ベルギー王国大使館  
作品制作技術協力 キヤノン株式会社  
協 力 株式会社堀内カラー/株式会社日本カメラ社

2002年から実施している「日本の新進作家」展を、開館10周年記念の一環として、国際版に拡大した。全7ヶ国から、15作家・グループの作品を展示し、各国大使館の協力を得られた招聘作家によるギャラリートークも開催した。3会場を「私性(プライベート)」という共通テーマで展開し、写真のみならずビデオ、スライド、DVD映写など映像作品も紹介した。



**世界文化遺産 写真展  
アンコールと生きる**

**期 間** 平成17年7月16日(土)～8月14日(日)28日間  
**主 催** Culture Motion "APPASSIONATO"「アンコールと生きる」写真展実行委員会/東京都写真美術館/朝日新聞社  
**後 援** 外務省/東京都教育委員会/在日本国カンボジア王国大使館/UNESCO/日本放送協会/社団法人日本ユネスコ協会連盟/財団法人文化財保護・芸術研究助成財団/社団法人日本カンボジア協会/財団法人平山郁夫シルクロード美術館  
**協 賛** アートロイヤルリビング/コメット株式会社/株式会社小学館/新光証券株式会社/セイコーエプソン株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社/富士フィルムイメージング株式会社  
**協 力** 大王製紙株式会社/東京築地ライオンズクラブ/日本コンピュータ・アーツ株式会社/株式会社フレームマン/NPO文化遺産保存・記録協会  
**助 成** 社団法人メセナ協議会認定事業/芸術文化振興基金助成事業

8世紀から15世紀にかけてインドシナ半島に栄えたアンコール王朝は、ヒンドゥ教、仏教を背景にして宗教建築物をはじめとする独特の文化を形成した。それが今日「アンコール遺跡群」と呼ばれているものであり、1992年にユネスコによって世界文化遺産に指定され、世界で最も緊急に修復保存を必要とする遺跡となっている。本展は、1994年より現在まで、消滅しつつある遺跡群を記録にとどめるため日本国政府アンコール遺跡救済チーム(JSA)に参加し、体系的な記録を撮影しつづける写真家・BAKU斎藤の仕事を紹介し、強烈な自然の力と共生する遺跡群の現状、そしてそこに生きる人々の姿を描き出すものである。



©Baku Saito

**社団法人日本写真文化協会特別企画写真展  
ザ・プライド・オブ・ジャパン**

**期 間** 平成17年8月20日(土)～9月4日(日)14日間  
**主 催** 社団法人日本写真文化協会  
**共 催** 東京都写真美術館  
**後 援** 朝日新聞社/サッポロビール株式会社/写真感光材料工業会/日本カラーラボ協会/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会/社団法人日本広告写真家協会/日本写真芸術学会/社団法人日本婚礼写真協会/日本写真館協会/日本営業写真機材協会/アサヒカメラ/日本カメラ/日本フォトコンテスト/CAPA/月刊カメラマン  
**協 賛** 富士フィルムイメージング株式会社/コニカミノルタイメージング株式会社/コメット株式会社/株式会社和田台紙店/株式会社保科/株式会社東映堂/東京ラミネックス株式会社/日進堂印刷株式会社/ダイコロ株式会社/株式会社宮崎/ハーレー株式会社/株式会社キョーコロ/株式会社トーコロ/株式会社光陽モネカ/マミヤ・オービー株式会社  
**協 力** 株式会社写真弘社/株式会社フレームマン

全国47都道府県の写真文化協会会員がそれぞれの居住する郷土を見つめ直し、そのチャームポイントを写真で表現しようと試みた作品を展示した。風景、文化財、祭りなどの観光資源だけでなく、庶民の暮らしの中の生活文化や郷土の人々にも視点を広げ、各都道府県それぞれのお国自慢を網羅することにより、日本そのものの魅力を再発見する契機とした。



**第16回日本写真作家協会展  
第3回日本写真作家協会公募展**

**期 間** 平成17年9月10日(土)～9月25日(日)14日間  
**主 催** 日本写真作家協会  
**協 力** 東京都写真美術館

協会の会員が出品する作品と、公募展の入賞・入選作品の、ふたつの作品展を毎年展示している。

本年度は会員254名による作品と、全国の写真愛好家からの公募作品から入賞・入選した98点を加え、全350点を展示した。本展は大阪、広島に巡回。



**ローザスとアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルの25年**

**期 間** 平成17年10月1日(土)～10月30日(日)26日間  
**主 催** 株式会社カンパセーションアンドカムパニー  
**共 催** 東京都写真美術館/ダンス展実行委員会  
**後 援** ベルギー王国大使館  
**協 力** 財団法人埼玉県芸術文化振興財団/ナディッフ/ユーロスベス/ブラッセルズ株式会社/イメージフォーラム  
**企 画** Rosas/conversation

ベルギー、ブリュッセルを拠点に80年代以降、世界のコンテンポラリーダンス・シーンをリードしてきた振付家アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル率いるカンパニー〈ローザス〉。常に音楽的構造と身体構造の関係を探究しつつ、意欲的に作品発表を続けてきた。本展は〈ローザス〉25周年の軌跡を写真及び映像インスタレーションを中心に展示する初の展覧会企画であり、ローザスの特徴である身体運動と音楽、空間の関係性にスポットを当てたものである。



**写真新世紀2005  
写真表現の新しい可能性に挑戦する  
第28回公募受賞作品展**

**期 間** 平成17年11月12日(土)～12月11日(日)26日間  
**主 催** キヤノン株式会社  
**共 催** 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年秋に「写真新世紀」をスタートした。銀塩、デジタル写真を問わない、また他の映像表現分野とクロスするような実験的作品を含めたさまざまな試みを応援している。本展では優秀賞受賞者6組7名の受賞作品を展示。また同時に前年度のグランプリに選ばれた川村素代、滝口浩史の新作による2人展を開催した。



**横須賀功光の写真魔術・光と鬼**

**期 間** 平成17年11月19日(土)～12月18日(日)26日間  
**主 催** 横須賀功光の写真魔術「光と鬼」実行委員会  
**共 催** 東京都写真美術館/朝日新聞社  
**後 援** 社団法人日本写真協会 社団法人日本写真家協会 社団法人日本広告写真家協会

**特別協賛** 凸版印刷株式会社  
**協 賛** 株式会社光邦/株式会社資生堂/株式会社ニコン/ニコン販売株式会社/日本大学芸術学部校友会/株式会社パラゴン/株式会社フォトファクトリー/富士フィルムイメージング株式会社  
**協 力** VOGUE NIPPON/株式会社MGS照明設計事務所/キヤノン販売株式会社/啓皇GROUP/株式会社写真弘社/新写真派協会/トリ・バイントレーディング株式会社/日本大学芸術学部写真学科/株式会社バルコ/株式会社PGI/株式会社フォトグラファースラボラトリー/株式会社フレームマン/株式会社松岡正剛事務所/財団法人三宅一生デザイン文化財団

2003年1月14日65歳で急逝した横須賀功光の展覧会。横須賀は広告写真家として40年余りに亘って広告写真のリーダーの一人として国際的にも活躍し、高い評価を得ていたが、写真作家としても数々の創作活動を行ってきた。常に写真表現の可能性を追求した横須賀の作品の全貌を紹介した本展は、写真という表現方法と芸術性を後世に伝える意義深いものであると思われる。

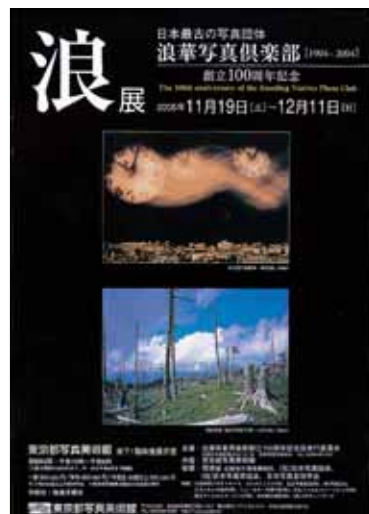




浪華写真倶楽部・創立100周年記念  
浪展

期 間 平成17年11月19日(土)～12月11日(日)20日間  
主 催 浪華写真倶楽部創立100周年記念実行委員会  
共 催 東京都写真美術館  
後 援 環境省近畿地方環境事務所/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会/日本写真芸術学会  
協 賛 大阪梅田ツカモトカメラ/コニカミノルタホールディングス株式会社/近士写真製版株式会社/株式会社写真弘社/ニコンカメラ販売株式会社/ニューカラー写真印刷株式会社/富士フイルムイメージテック株式会社/富士フイルムイメージング株式会社/光村推古書院株式会社/株式会社ラポネットワーク

1904年1月9日大阪で誕生した浪華写真倶楽部は、日本最古の歴史を有する写真団体であり、今回は、創立100周年の意義を込めて写真美術館で開催。「歴史編」では、昭和初期の福森白洋、安井仲治、花和銀吾、小石清等のビクトリアリズムの芸術写真に始まり、新興写真、前衛写真から1960年代までの作品を81点、「現代編」では津田洋甫、高田誠三等、現会員41名の作品を334点展示。「一人一党」を尊重する浪華写真倶楽部の伝統と現在を一望する展示である。



社団法人日本写真家協会 企画展  
日本の子ども60年

期 間 平成17年12月17日(土)～平成18年1月9日(月)18日間  
主 催 社団法人日本写真家協会  
後 援 東京都写真美術館/読売新聞社文化庁  
成 東京都芸術文化発信事業助成/社団法人企業メセナ協議会認定事業岩合産業株式会社/エプソン販売株式会社/キヤノン販売株式会社/株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社/富士フイルムイメージング株式会社/三菱商事株式会社  
特別協賛 株式会社アラクス/株式会社イムラ封筒/株式会社資生堂/竹田印刷株式会社/東海旅客鉄道株式会社/東京海上日動火災保険株式会社/松下電器産業株式会社/日本生命保険相互会社/社団法人日本写真家協会賛助会員各社  
協 力 新生紙/ルピ商事株式会社/株式会社ノリタケカンパニーリミテド/北越製紙株式会社

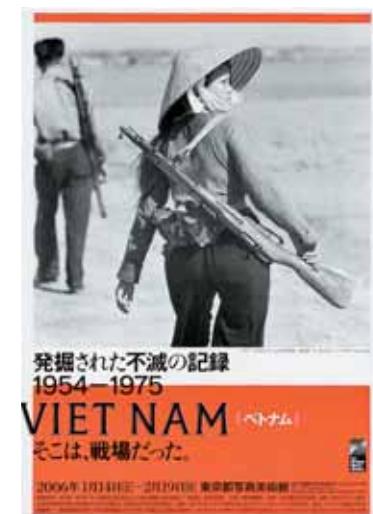
戦後60年にあわせて開催した本展は、1945年から2005年までのさまざまな子ども達の姿を捉えた204点の写真で構成した。日本の写真家148人が撮影した24,000点の中から厳選した作品は、子どもの姿を生き生きと捉えているだけでなく、各時代の生活や社会をくっきりと背景に写し出している。子ども達に、展示作品の時代や社会背景をより深く理解してもらうためのキッズ・フォトレクチャーを同時開催した。



発掘された不滅の記録1954-1975  
VIET NAM・そこは戦場だった。

期 間 平成18年1月14日(土)～2月19日(日)33日間  
主 催 朝日新聞社  
共 催 東京都写真美術館  
後 援 ベトナム社会主義共和国大使館  
協 賛 富士写真フイルム株式会社/富士フイルムイメージング株式会社  
協 力 ベトナム通信 (VNA)

第1次インドシナ戦争、フランス統治からの解放、南北分断を経て、激しい戦闘が繰り返されたベトナム戦争は、歴史上例を見ない量の報道が成された。世界中から多くの報道関係者が集まり、命を賭けて最前線へ赴き、シャッターを押した。本展では、今まであまり紹介される機会がなかった北ベトナムの写真家が撮影した写真も交えながら、これらの30年以上経ても色あせることのないジャーナリズムの精神とその成果を見つめ直すものである。



第6回九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展  
上野彦馬賞写真展

期 間 平成18年2月11日(土・祝)～2月18日(土)7日間  
主 催 九州産業大学/毎日新聞社  
後 援 文化庁/日本写真芸術学会/東京都写真美術館  
協 賛 オリジナス株式会社/キヤノン販売株式会社/コダック株式会社/コニカミノルタホールディングス株式会社/サイバークラフィックス株式会社/株式会社ニコン/富士写真フイルム株式会社/株式会社ポロラボクリエイト福岡/ベンタックス株式会社

日本における写真の開祖上野彦馬の名前を冠する本コンテストは、写真文化の振興に力を入れている九州産業大学と毎日新聞社により実施され、「出てこい現代の彦馬たち」を合い言葉に第6回を迎えた。今回の上野彦馬賞は東京の岡原功祐氏が、ジュニア大賞には新潟の吉楽佳代子氏が全国と海外からの応募作品2,631点の中より選ばれた。本展では、この大賞作品と入選作品71点のほか、「近代日本史に名をとどめる人物」と題して下関市立長府博物館所蔵のオリジナルの古写真34点を拡大複製とともに展示構成した。



平成17年度【第9回】文化庁メディア芸術祭

期 間 平成18年2月24日(金)～3月5日(日)10日間  
主 催 文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁/財団法人CG-ARTS協会)

技術と表現の融合、アートとエンターテインメントの交差＝「メディア芸術」顕彰を目的に、第9回には44ヶ国1,797件の応募から約180点を展示し、上映、シンポジウム、企画展など多様なイベントで過去最高の入場者約70,000人を記録した。受賞作品展のほか「学生CGコンテスト」、「デバイスアート展」、「先端技術ショーケース」などの展示、「アジア学生アニメコラボレーション」など多数の連携事業も充実した。

